

## 幼児の片付けに対する教師の援助の工夫

—4 歳児の片付け場面における物，時間，人とのかかわりに着目して—

広島市立長束幼稚園教諭 山本 登喜美

### 研究の要約

本研究は、4 歳児の片付け場面の中で、物，時間，人とのかかわりに着目して、幼児の片付けに対する教師の援助の工夫を探っていくことを目的としたものである。

その際、「教師の援助と行動を関連付けた見取り表」を作成すると共に保育実践により、「片付け～すっきり大作戦！～」を設定し、段階的な援助の工夫を行った。

その結果、幼児がみんなで使った場所をみんなで片付けようとする意識をもち、使いやすく整えたり、時間的な見通しをもって片付けたりしようとするようになってきた。また、整った状態を心地よいと感じ、元の状態に戻そうという意欲や達成感をもつことで、進んで片付けを行うようになり、物，時間，人とのかかわりに着目した援助は有効だと分かった。

キーワード：教師の援助の工夫

物，時間，人とのかかわり

教師の援助と幼児の行動を関連付けた見取り表

## I 問題の所在

広島県教育委員会が広島県内の幼稚園・保育所の保育者及び保護者を対象に平成22年に実施した『広島県幼児教育調査』<sup>1)</sup>では、保育者観察調査の項目ごとの経年比較において、平成18年度の調査と比較し、生活の基盤である基本的生活習慣に関するもののうち、『整理整頓の定着は不十分である』と挙げている。幼児期は身の回りの自立が進む時期ではあるが、整理整頓については、「整った状態は気持ちが良い」「片付けは次の活動への準備でもある」など、片付けのやり方や必要性を十分意識したり見通しをもって活動できたりしていないことが要因の一つだと考えられる。

所属園の片付けの状況を見ると、4歳児の後半頃より、ほとんどの幼児が自分の身の回りのことは自分でできるようになってくるが、集団の中での片付け場面においては、どこに片付けたらよいか十分に理解できていなかったり元の場所に片付けることはできても、使いやすく整えることが難しかったりする姿が見られる。

また、遊びに区切りがつけられず、片付けに参加しにくい姿や次の活動に見通しがもてないために、片付けに時間がかかる姿も見られる。

松田(2006)は、幼児が片付けを学ぶ意義について、物とのかかわり、時間とのかかわり、人とかかわりを挙げており、快適な生活を送るための感性の涵養であると述べている。

自身のこれまでの保育を振り返ってみると、幼児への援助が具体的でない部分があり、幼児の物、時間、人とかかわりに焦点化して、教師の援助を工夫することが、幼児の片付けに対する意識を高め、見通しをもって片付けるための有効な手立てとなると考える。

そこで本研究では、4歳児の片付け場面の中で、物、時間、人とかかわりに着目し、幼児の片付けに対する教師の援助の工夫を探っていくこととした。

## II 研究の目的

幼児の片付けに対する教師の援助の工夫として、幼児の物、時間、人とかかわりに着目した「教師の援助と幼児の行動を関連付けた見取り表」を作成し、その有効性を探る。

## III 研究の方法

- 1 研究主題に関する基礎的研究
- 2 教師の援助と幼児の行動を関連付けた見取り表の作成
- 3 保育実践の計画と実施
- 4 保育実践の分析と考察

## IV 研究の内容

### 1 研究主題に関する基礎的研究

#### (1) 片付けの位置付けについて

松田(2006)は、子どもにとっても教師にとっても主活動ではない片付けの時間は、消極的でネガティブな時間になりがちだが、保育の中で有意義な時間として位置づけ、幼児の成長・発達の基盤となる、生活の充実を図るための一つの手がかりとしたいと述べている。

また、片付けは、身の回りを整理整頓する生活習慣としての側面に加えて活動の締めくくりと次の活動の準備という二つの側面があることを指摘している。

#### (2) 片付けの意識を高めるとは

松田(2006)は、幼児が片付けを「自分でできる」「自分でやりたい」という意欲が育つよう、意識を高めていくことが重要であること、そのために片付けに対しての目標がもてるように、段階的に意識を高めていくことが大切であると述べている。

### (3) 期待される幼児の姿

松田（2006）は、日に何度も経験される片付けの取組によって子どもたちの生活の質が大きく左右されると述べ、物、時間、人とのかわりから、表1のような幼児の姿が期待できると示している。

表1 期待される幼児の姿

	期待される幼児の姿
物	<ul style="list-style-type: none"><li>・物に愛着をもつ。</li><li>・物の大きさや形に気付く。</li><li>・素材の特徴が分かる。</li><li>・種類による分類や組み合わせが分かる。</li><li>・いる物といない物を分ける。</li><li>・分類する楽しさを感じる。</li><li>・自分の物とみんなの物の区別ができる。</li></ul>
時間	<ul style="list-style-type: none"><li>・見通しをもちながら生活する。</li><li>・時間の流れを感じる。</li><li>・時間を意識する。</li><li>・時間の概念を理解する。</li><li>・物の量と片付けにかかる時間の長さが分かり、調整する。</li></ul>
人	<ul style="list-style-type: none"><li>・友達とかかわる楽しさを感じる。</li><li>・仲間意識が育つ。</li><li>・次に使う人のことを考える。</li><li>・自分が役に立ったという思いをもつ。</li><li>・片付ける物によって人数に見当をつける。</li><li>・役割の分担ができる。</li></ul>

### (4) 教師の援助について

松田（2006）は、幼児が片付けを習慣として身に付けるためには、日々の経験の確かな積み重ねが必要であり、そのための教師の援助について、片付けの習慣が身に付いている幼児は持続していけるように、身に付いていない幼児に対しては少しずつ習慣化していくよう配慮がなされなければならないと示している。

また、幼児が「自分でできる」という感覚を育てるためには、幼児に自己有能感をもたらす自信となるよう、他のことにも挑戦してみようとする意欲につなげていくことや、難しい部分・挑戦する部分に対し、段階を踏んでスモール・ステップに分けて幼児に提示する工夫を行うことをあげている。

そして、片付けについての意義を教師自身がよく理解して、何のためにやるのか、どのよう

にできたらよいかということ幼児に伝えていねいに伝え、できないところは手助けをするという対応を心がけることが重要であり、はじめは教師ができるだけ具体的な行動を指示することで、幼児はその経験を積み重ね、次第に自ら判断して行っていく力を養っていくようにと述べている。

富田（2012）は幼稚園における片付け場面での援助方法について、直接的な援助と間接的な援助があり、直接的な援助とは、助言や指示を個別に働きかけること、間接的な援助とは子どもたち自身が気づくよう働きかける援助だと述べている。

また、下地（2010）は直接的援助について、ヒントやアイデアを教えるなど、幼児の必要感に応じてなされることが重要であると示しており、間接的援助については、環境を通して行われ、教師が状況を作り、見守る、一緒の場にいる、モデルとしての人的環境になるなど、多様な方法があると示している。

このように、幼児が片付けに対する意識を高め、見通しをもって片付けるための有効な手立てとするためには、教師が、幼児の実態に応じたねらいを設定し、適切な援助を見極めていく必要がある。

## 2 教師の援助と幼児の行動を関連付けた見取り表について

「教師の援助と幼児の行動を関連付けた見取り表」（別添参照）とは、検証保育の録画や授業リフレクションの場面より、片付け場面における物、時間、人とのかわりの三つの視点から、太枠部分の松田（2006）を参考に、意識の高まりを3段階に分け、保育場面で見取った具体的な幼児の姿と、教師が実際に行った言葉かけや環境の工夫を加えて照らし合わせ作成したものである。

その見取り表をもとに幼児の実態把握を行い、実態に応じたねらいを設定し実践保育を通

して少しずつ加筆，修正を行うこととした。

### 3 保育実践の計画と実施

#### (1) 検証保育

##### ア 日時

平成26年1月8日（水）～1月27日（月）  
12：30～13：30（弁当後の遊びの場面）

##### イ 対象

広島市立長束幼稚園 4歳児 24名

##### ウ 活動名

「片付け～すっきり大作戦！～」(全4日間)

##### エ 目標

整った状態は気持ちが良いことに気づき，見通しをもって片付ける。

##### オ 指導計画

幼児の実態から片付けを自分でしようとする意欲やできたという達成感を幼児自身が感じることができるようになることを目指し，表2のように段階を踏んで指導することとした。

表2 指導概要

	ねらい		
	物とのかかわり	時間とのかかわり	人とのかかわり
第1日	片付ける物と場所を一つずつ確認しながら片付けることができる。	片付けの時間になったことを聞いて集まることができる。	一緒に遊んでいた友達に気付くことができる。
第2日	一斉に集まり片付ける物を確認して片付けることができる。	教師の言葉がけや合図で自分から片付けを始めることができる。	友達の動きを意識したり受け入れたりして片付けることができる。
第3日	物を戻したり使いやすく整えたりすることができる。	一斉の合図で自分から片付けを始めることができる。	みんなで遊んだ場所を友達と一緒に片付けることができる。
第4日	自分で確認して元の場所に片付け整えることができる。	一斉の合図で自分から片付けを始めることができる。	みんなで遊んだ場所を友達と一緒に片付けることができる。

#### (2) 意識を高めるための教師の援助の工夫

片付け場面では，幼児が，物，時間，人と

のかわりにおいて，次のような教師の援助の工夫を行った。

##### ア 物とのかかわり

###### (ア) ブロックコーナーの分類，表示の工夫

ブロックを種類で分け，それぞれの箱に入れて分類した。箱には写真を貼り，片付ける場所を写真や表示で一つ一つ対応させていき，分類して片付けることを意識できるようにした。

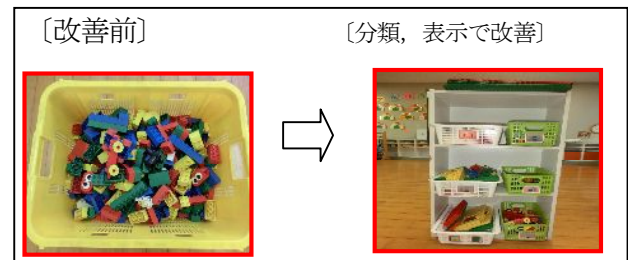


図1 ブロックコーナーの分類，表示の工夫

###### (イ) 製作コーナーの分類，表示の工夫

自分の物の置き場所がはっきりわかるよう，個人用の収納ボックスを作り，入れる場所に個人マークを付けた。

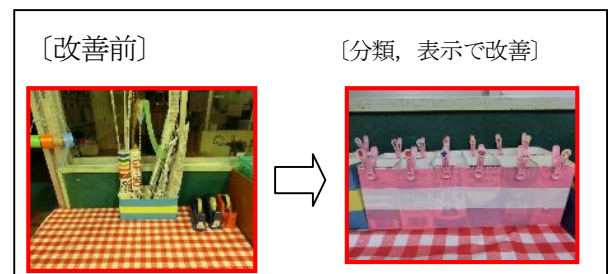


図2 製作コーナーの分類，表示の工夫

###### (ウ) ままごとコーナーの精選，表示の工夫

幼児だけでも片付けられるよう，ままごと道具の種類や量を精選した。棚にはままごと道具の写真を貼り，分類して片付けができるよう表示した。



図3 ままごとコーナーの精選，分類，表示

### (エ) 掲示物の工夫

遊びのコーナーの近くに紙類やテープ類など、物が混ざりやすい場所に整った状態の写真を掲示しておき、片付ける場所を確認しやすくした。

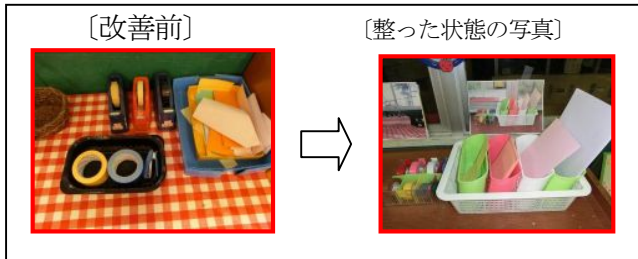


図4 掲示物の工夫

### (オ) 幼児に分かりやすい表現の工夫

「片付け～すっきり大作戦！～」では「すっきり」と「りんご」を合わせたキャラクター「すっきりりんご」を作り、きれいに片付けて「すっきりりんごにしよう！」を合い言葉にした。

また、片付け名人クイズをし、片付けた状態と片付けていない状態を視覚的に示すことで片付いた状態を「すっきりりんご」片付けていない状態を「がっかりりんご」としてより意識できるようにした。

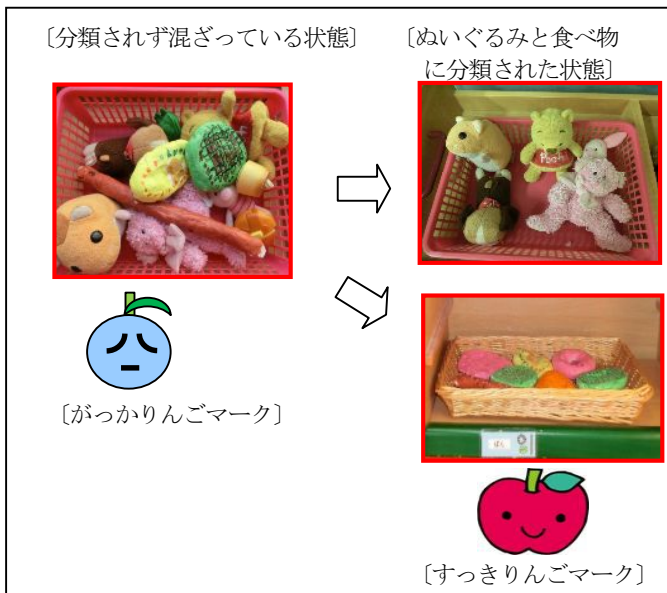


図5 幼児に分かりやすい表現の工夫

### イ 時間とのかかわり

#### (ア) 時間の見通しの工夫

時計に目印をつけ、片付けの時間を知らせたり、遊び場の近くで確認できるよう、そばに時

計や表示を置いたりした。

### (イ) 音楽の工夫

片付けが始まったことや片付けが続いていることを意識できるよう、音楽をかけた。

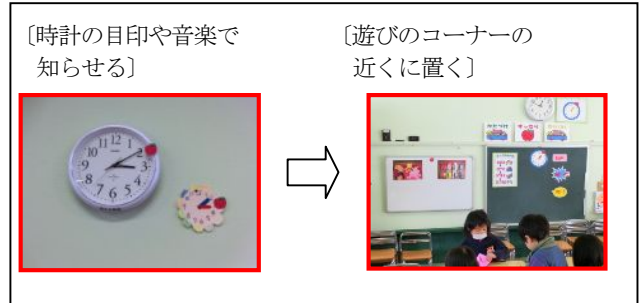


図6 時間の見通しや音楽の工夫

### ウ 人とかかわり

#### (ア) かかわり合う場の設定の工夫

- ① パトロール隊を設定し、自分の片付けが終わったら、他の遊びのコーナーにパトロールに行き、片付けがまだの所は一緒に片付けるようにした。
- ② 活動「片付け～すっきり大作戦！～」の後、みんなで片付けた達成感を味わうため子ども達の好きな歌や踊りをクラスみんなで歌ったり踊ったりした。

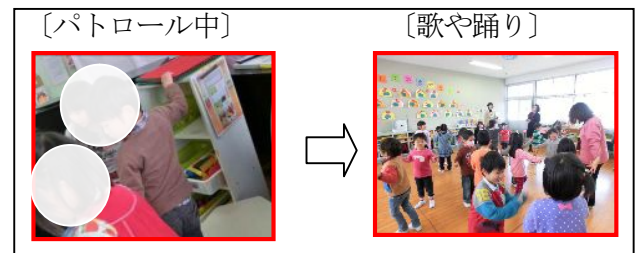


図7 かかわり合う場の設定の工夫

- ③ 「片付け～すっきり大作戦！～」では片付けの最後にみんなで片付いた状態を確認し、整えることができた時は「すっきりりんごになったね。」と認め、「すっきりりんごの木」に「すっきりりんごマーク」を付けた。

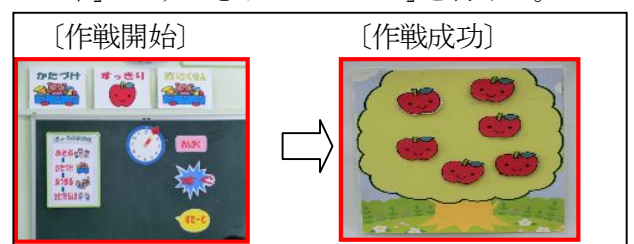


図8 片付け～すっきり大作戦！～

## 4 保育実践の分析と考察

### (1) 分析方法

観察法を用いて検証保育前と検証保育後の写真や録画で比較し、片付け場面における配慮を要する幼児及び全体の幼児の変容を見取った。

### (2) 分析と考察

#### ア 片付けの参加人数の変化

表3は、1月21日（第2日）と1月27日（第4日）のブロックコーナーの片付け時間の経過と参加人数の推移である。

まず、第2日の片付け時間の経過と片付け人数の増加の推移については、片付け開始から1分後、2分後の参加人数はそれぞれ5人で横ばいであるが、3分後と4分後には8人に増加し、わずかだが増加傾向が見られる。

次に第4日の片付け人数は、片付け前は4名であったが片付け開始時には8名に増加し、1分後には10名に増加している。第2日に比べ、人数の増加が顕著である。さらには、2分後には11人だった参加人数が、4分後には18人に増加した。

#### イ ブロックコーナーで見られた片付けに対するつぶやきや姿

表4は、第2日と第4日のブロックコーナーで見られたつぶやきや姿である。

教師の援助と幼児の行動を関連付けた見取り表で見ると、まず、片付け開始時について、第2日は、片付けが始まったことに気が付かない姿や自分が出した物だけ片付けると遊び始める姿など、I段階の姿が多く見られたが、第4日には、音楽がかかったらすぐに片付け始めたり、自分の物を片付けた後に、他に片付ける場所がないか探したりするなど、II段階の姿に変容した。

また、片付け開始から4分後の幼児のつぶやきや姿について、第2日は写真の通りに片付けができたことに満足するなど、I段階の姿が多く見られたが、第4日には、友達と一緒に手分けして種類や形で分類しながら片付ける姿が多く見られ、II段階の姿に変容した。

このように第2日と第4日の状況を比較すると、片付けに参加した人数が増えただけでなく、幼児

が片付けの状況を自分達で判断し、「困っている所を手伝おう」と、友達の動きに注目したり、「みんなで片付ければ早い。」と、片付ける場所に集まったりするなど、片付けに見通しをもてるように変容してきたと考えられる。

#### ウ A児の変容

検証前のA児は、作った物を決められた場所に置くことができない、片付けの時間に気付かない、自分の片付けが終わると友達の動きに関心がない、といった姿が見られた。

そこでA児の姿から、「教師の援助と幼児の行動を関連付けた見取り表」と照らし合わせ、現在のA児の姿をI段階（片付け方が分からない、片付けに見通しがもてないなど、片付けに参加しにくい姿）にいると捉えた。そこで、まずは、物、時間、人とのかかわりそれぞれの視点から、表5のように、第1日はI段階に応じた援助を中心に援助を行った。すると、物を決められた場所に戻す、片付けの時間に気付く、気の合う友達と片付けるなどの姿が見られ、第4日には見取り表のII段階の行動（見通しをもち、友達と一緒に片付ける姿）が多く見られるようになった。

表3 片付けの参加人数の変化

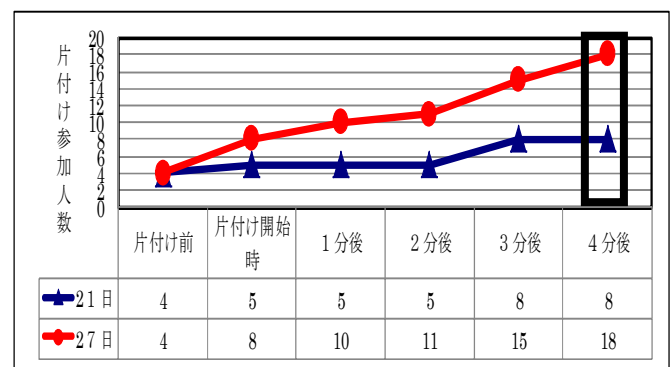


表4 ブロックコーナーで見られたつぶやきや姿

	片付け開始時の幼児のつぶやきや姿
第2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片付けの時間に気付かないうちに片付けが終わる。</li> <li>・時計の目印を見て片付けの時間に気が付いているが、自分が出した物だけ片付けを終えて遊び始める。</li> <li>・「長い針が4になったよ。」とつぶやき、目印には興味をもっている。教師の声かけで片付けを始める。</li> </ul>
第4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽がなったら、「片付けの時間だ。」と大きな声でクラスみんなに知らせる。</li> <li>・自分の物をすぐに片付け、片付けが終わっていない場所を察知したり、友達が困っている状況を判断したりして移動する。</li> <li>・片付けを知らせる音楽にすぐに気が付き、すぐに自分から片付けを始める。</li> </ul>

	片付け開始から4分後の幼児のつづやきや姿
第2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の動きにはあまり関心がなく、友達が片付けを手伝い、さっさと片付けてしまうが本人は困っていない。</li> <li>・表示に関心をもち、物と写真を見比べて、「こんなに片付いているのは写真の通りにしているからだよね」とつぶやく。</li> </ul>
第4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組み立てたブロックを一つ一つ分解し、種類や形で分け、手分けして箱に入れる。</li> <li>・「やったー。片付け大成功！みんなで頑張った。みんな片付け名人だね。」と喜ぶ。</li> <li>・「まだの所はないかね。」と、パトロールして片付ける所を探すようになった。</li> <li>・「すっきりんごになった！」とつぶやく。</li> </ul>

表5 A児の変容

第1日			
	A児の姿	援助の工夫	結果
物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作った物を棚の上に置くが、決められた場所に置くことはできない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の物と友達の物の区別ができるよう、整理箱を作る。</li> <li>・縦長の形の箱にすることで長い物も収納できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでは棚の上に無造作に置いていたが、それを自分のマークがついた箱の中に入れることができた。</li> </ul>
時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片付けの時間に気付かないで、作った物を振り回し、いつの間にか時間が過ぎている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片付けの時間になったら集まり、片付けを始めることを意識できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの区切りをつけ、みんなで集まったことで、片付けが始まった事を理解し片付けを始めた。</li> </ul>
人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の片付けが終わるとまだ片付けの時間が続いても関心が無い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に遊んでいた幼児に気付くよう、片付けの前を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に遊んでいた友達に誘ってもらうことで参加しやすくなった。</li> </ul>

第4日			
	A児の姿	援助の工夫	結果
物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元の場所に物がきちんと入っていることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A児が片づけ名人になろうと張り切っていることをクラスみんなに伝え、頑張りを認める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整った状態の写真と実際に片付ける物を見比べ元の状態に戻すことができた。</li> </ul>
時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽がかかった時は見通しがもてるが、音楽がかからないとすぐに片付けを始められない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間になったらタイミングを逃さず、音楽をかけるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽がなったらすぐに「片付けー」と大きな声で叫んでいた。</li> </ul>
人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで一緒に片付けようとする気持ちが出てきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「パトロール隊になって、まだ片づけていない所を探して。」と、友達の動きに関心をもちさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片付けが終わっていない場所を見つけて、最後まで片付けを行うことができた。</li> </ul>

## V 研究のまとめ

### 1 成果

#### (1) 教師の援助について

片付け場面における教師の援助について幼児の実態に応じたねらいを設定し、環境設定や幼児への言葉がけなど、具体的な援助を工夫することで、幼児が「自分でできる」「やったらできた」という達成感を感じて、内面の育ちにつながった。

また、援助の段階については、幼児の実態に応じて、指示や助言など直接的な援助から、次第に幼児自身が自分で確かめ行動できる間接的な援助へと少しずつステップをあげていくことが有効であった。

#### (2) 物、時間、人とのかかわりの有効性について

「片付け～すっきり大作戦！～」を通して、物、時間、人とのかかわりに着目した援助を行ったことは、幼児が、片付けに見通しをもち、みんなで遊んだ場所をみんなで片付ける意識を高め、整った状態を目指して行動する姿につながった。

また、物、時間、人とのかかわりに着目したことで、片付けに対する援助の視点が定まり、視覚的な工夫や幼児にとって分かりやすい表現、幼児同士のかかわりが生まれる場作りなど、よりよい援助を行うことができた。

#### (3) 「教師の援助と幼児の行動を関連付けた見取り表」の活用について

「教師の援助と幼児の行動を関連付けた見取り表」を作成することで、片付け場面における幼児の実態を把握する際にも活用することができた。

また、「教師の援助と幼児の行動を関連付けた見取り表」により、個々の幼児が今どの段階にいるのかを見取ることで、段階に応じた援助を行うことができた。

### 2 課題

## (1) 教師の援助のタイミングの見極め

教師の援助が適切でない場合は幼児の動きが変わり、直接的な援助が増えてしまうことが分かった。

今後は、物とのかかわり、時間とのかかわり、人とのかかわりだけでなく、言葉かけや指示など教師の援助全体を意識化し、場面に応じた効果的な言葉かけができるような工夫が必要である。

## (2) 見取り表の整理

今後は、実践を通して、教師の援助と幼児の行動を関連付けた見取り表を活用しながらより使いやすい物になるよう整理を行っていく。

### 【引用文献】

- 1) 広島県教育委員会『広島県幼児教育調査』2009年, 2頁

### 【参考文献】

- 1) 下地恵美理『那覇市立教育研究所研究報告書』2010年, 48頁
- 2) 富田久枝『千葉大学教育学部紀要』第60巻  
「幼稚園における片付け場面での年齢差を考慮した援助内容—保育者の実践知と教育課程との関連からの検討—」2012年, 36頁
- 3) 松田純子『実践女子大学生生活科学部紀要』第43号  
「子どもの生活と保育—『かたづけ』に関する一考察—」  
2006年, 61頁-71頁